

令和7年度

磐梯朝日国立公園飯豊地域植生復元モニタリング等業務
報告書

令和8年1月

環境省 東北地方環境事務所

NPO 法人飯豊朝日を愛する会

目次

(1) 植生復元作業箇所確認 1

(1) 植生復元作業箇所確認

植生復元作業箇所現況記録

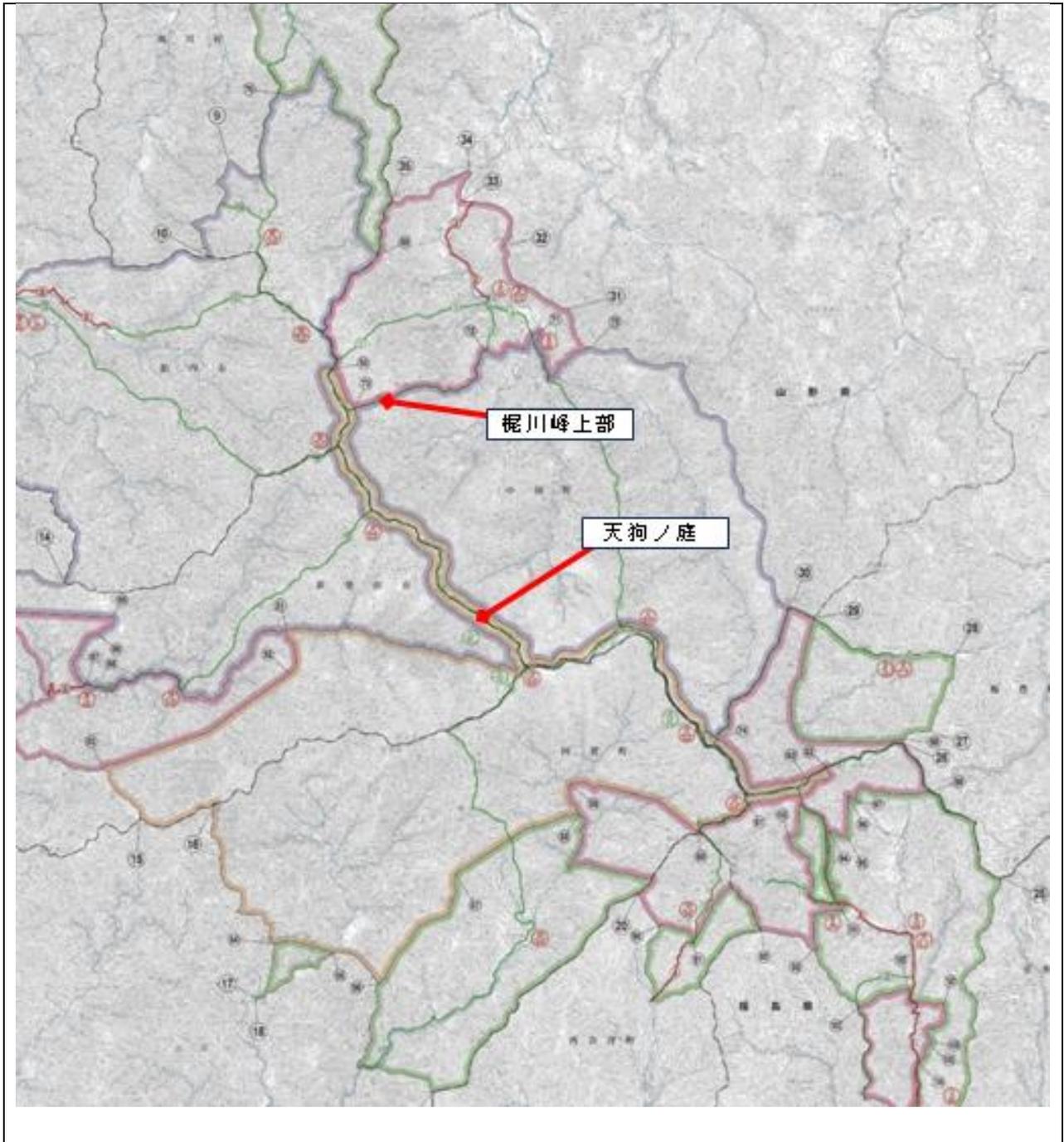
(i) 梶川尾根上部：山形県西置賜郡小国町

(コドラート記号 Kj 令和7年9月12日)

(ii) 天狗ノ庭：山形県西置賜郡小国町

(コドラート記号 Tn 令和7年7月30日)

業務位置図



i) 梶川尾根上部 (K j)

平成 18 年に試験的に保全を実施し、平成 21 年、22~26 年と、ほぼ毎年保全作業を行ってきた。平成 28~29 年にも周辺での種子の採取と播種を伴う保全作業を行い、ヤシ製土嚢内からチングルマが発芽しやすいことを確認してきた。

令和元年にはコドラートを設定したエリアの下部において大規模な合同保全作業を行った結果、流入を分散排水し、土のうなどによるダムにマサ土が蓄えられている。

コドラートは 15 箇所、令和 7 年 9 月 12 日に調査を行った。

下部では過去 5 年間、コドラートの外を含め植生が明らかに回復している。No.3 では大株に成長していたノガリヤス類がほぼ枯れて、株の隙間で育っていたハクサンボウフウやヒメスゲが目立つようになった。

No.9 からの中間部、及び No.14、15 の上部については、コドラートの設定が、礫が移動しやすい裸地部にほぼあるため、植生の回復が進んでいない。

なお昨年までコドラート調査を行ってきた御西小屋西側と玄山道分岐については、ほぼ植生が回復傾向にあるため、今後は経過観察をしながら推移をみていきたい。御西小屋西側については、平成 8 年に撮影された写真を入手したので、29 年後の令和 6 年に撮影された写真とともに下に掲載した。これにより、植生が回復していることが読み取れる。



飯豊山の植生破壊



ii) 天狗ノ庭 (T n)

平成 19~21 年に合同保全作業が行われ、池塘が再生したが、長年テント場として利用されてできた裸地の回復までは至らなかった。

平成 28 年の合同保全作業でヤシロールが棚田状に敷かれたことで土砂の移動がコントロールされてきた。ただし植物の活着は、棚田の畦にあたるヤシロール周辺や、種が集まる雨水の通り道などに限られている。

合同保全作業から 10 年近くが経過したが平坦面の礫の移動を抑えたり、平坦面をさらに細かくヤシロールで区切り微地形を増やすなどの大規模な保全作業が必要である。

コドラート数は 15 で、令和 7 年 7 月 30 日に調査を行った。

令和 6~7 年の冬は豪雪だった影響もあり、コドラート全体にイネ科やカヤツリグサ科の植物は成長が No.1 や 5、7、8、10、12 などでは後退気味である。

No.3、6 は地衣類のみの生育で変化が見られない。No.11、15 はナンブタカネアザミが旺盛で、No.15 ではスマレの一種も増加している。No.9 では表土が後退して露出した泥炭層にもひび割れが入って乾燥化が進んでいる。

天狗ノ庭は地滑りによりできた平坦面と考えられ、現在の登山道がある尾根との段差が滑落崖である。平成 8 年当時、まだ天狗ノ庭の平坦面に登山道があった当時の写真(下図)をみると、コドラートのある調査地点よりさらに上流では、人が歩くことにより洗掘されだし、やがて沢となり、登山者がまたそこを避けて複線化していく様子がよくわかる。

現在の登山道は写真左側の滑落崖の上にあるが、人為的に作られた沢地形によって、大雨時などに下流の天狗ノ庭に流水が流入して、攪乱を起こしていると考えられる。

次年度は写真の地形が 30 年経過してどのような状態になっているか、旧道に沿って踏査したい。



【植生復元作業箇所確認画像】

i) 梶川尾根上部

法面を覆うようにチングルマが進出している場所が見られる。



10年前試行的に法面を埋めたヤシポットは消滅せず、地衣類が生育している。



ヤシ土のうによるダムの堰堤は10年経っても機能しており、保全資材に重要なマサ土を捕捉している。



匍匐性のチングルマだけでなく、ナナカマド類（画像）やヤナギ類の木本植物が生育し始めている。



緩斜面に形成されたヌマガヤ草原がいったん失われると、花崗岩を覆う片岩などの古い地層（付加体の足尾帯）の露出、岩砕化が加速して、一気に荒廃する。



源五郎ネットに植生が絡みつき効果を上げているように見えるが、なおヌマガヤ草原が後退して帯状に裸地が見られる。



ii) 天狗ノ庭

<p>天狗ノ庭遠望。天狗ノ庭は地滑りによりできた平坦面。</p>	<p>天狗ノ庭上部から天狗ノ庭方面。左の斜面は地滑りでできた滑落崖。中央はかつての登山道で、植生回復は遅れている。</p>
	
<p>天狗ノ庭内の最上部面は繰り返し保全作業を行ってきたが、マサ土の流入が植生回復のスピードを上回り、定着していない。</p>	<p>天狗ノ庭の中央北側も広く植生回復がみられない。源五郎ネットなどにより微地形を多く作る方法を試す必要がある。</p>
	
<p>流路に沿ってある程度植生の回復が見られる。</p>	<p>土砂が流入したかつての池塘は、被植率は高まっている。</p>
	

令和7年 梶川尾根上部コドラート1

	遠景	近景
Kj 01		
Kj 02		
Kj 03		
Kj 04		

	遠景	近景
Kj05		
Kj 06		
Kj 07		
Kj 08		

	遠景	近景
Kj 09		
Kj 10		
Kj 11		
Kj 12		

	遠景	近景
Kj 13		
Kj 14		
Kj 15		

	遠景	近景
Tn 01		
Tn 02		
Tn 03		
Tn 04		

Tn 05		
Tn 06		
Tn 07		
Tn 08		

令和7年 天狗ノ庭コドラート3

Tn 09		
Tn 10		
Tn 11		
Tn 12		

Tn 13		
Tn 14		
Tn 15		